

ウララのと～こん注入

日之谷

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

話のコンセプトは猫吸いみたいなものです。

ウララちゃんは愛嬌○どころかイノセントチャーム持ちだと思います。

目次

ウララのとくこん注入

「ライスちゃん、来週レースに出るんだよね？」

トレセン学園の中庭でハルウララの元気な声がする？

「う…うん、そうなんだ」

小さな声で返事をするのはウララの友人、ライスシャワーである。

「で…でねウララちゃん、レースも近いからアレをお願いしてもいいかな？」

ライスは節目がちにウララにお願いをする。

「アレ？いいよ、はい！」

ウララは笑顔でライスの前で両手を広げたと思うとそのままライスの抱きついた。

「んむくウララパワーちゅくにゅく!!？」

そう言いながらギュつとライスを抱き締める。

「ありがとうウララちゃん、ライス元気出たよ」

数十秒くらいであろうか、ウララに抱き締められていたライスが言う。

「ホント!?？わあい！やったあ！」

このウララのパワー注入もといハグはここ最近のトレセン学園で見られる光景であった。

元々は、ハグにはストレスを解消するというのをウララが寮のテレビで観ていたのが始まりである。そのときは「どーばみん」やら「せろとにん」やら言っていたがウララの頭にはハグ⇨元気が出ることとなったのだ。

その次の日に早速実践しようとして模擬レースが控えていたライスにハグをしたところ緊張が解けたらしく8バ身以上の差をつけての1着をとったのだ。

以降ライスはレースが近くなるとウララにお願いしてハグをしてもらい、レースで1着を取る。これが続いているといつの間にかウララにハグされるとレースに勝てるというジンクスが生まれていた。

実際にデビューを控えたウマ娘や成績が芳しくないウマ娘が試し

たところ1着を取れているのである。

これがハグによるストレス緩和なのか本当にウララからパワーを貰っているのかは分からないが、とにかくウララのもとにはレースを控えたウマ娘達がたびたび訪れていた。

以前、セイウンスカイがアグネスデジタルの見て何か思いついたのか悪い笑みを浮かべながら

「最近デジタルの調子が悪い、このままじゃ倒れちゃうかもしれないから本人に確認する前にかくウララの元気を分けてほしい」とお願いしていた。

実際にデジタルは原稿に追われていて連日徹夜していたので嘘はついていない。

話を聞いたウララはそのまま真っ直ぐにデジタルに向かい

「デジタルちゃん、元気出して！」

といつも以上に強めにハグをしたところ。

「エツ…ナニコレ…、ウララチャンガワタシニダキツイテキテ…アレ？」

何が起きたのか分からないのか硬直して片言を呟く、しばらくして状況を理解したのか突然

「んぎやあはええ!!？」

と奇声を出しそのまま倒れてしまった、しかしその顔は法悦の表情、まさに我が生涯に一片の悔いなしといった感じであった。

効果に差はあれど今日もウララのもとには沢山のウマ娘達がやってくるのであった。

数週間後…トレセン学園校舎裏

そこにはウララとライスが2人きりだった。

「ねえ…ウララちゃんまたアレやってもらうことって出来るかな？」
妙に目の据わったライスがウララにハグをお願いしていた。

「うんわかった！」

ぎゅっと抱きしめるウララ、それに対してライスも強く抱き締め返す。

最近のライスはレース前だけでなくトレーニング前にもウララに

こうしてもらっていた。

最初は元気付けてもらいたかったのだが、だんだんとライスはこの行為がやめられなくなっていた。

それはライスだけではなく他のウマ娘達も同様で、時には怪しい手つきでウララの体を触っていたりする娘もいたりするがウララは特に気にしていないのかいつも通りにギュつと元気パワーを注入しているのであった。

へピンポーン<ウララからのパワー注入は強い依存性があります。用法容量を守って正しく利用しましょう。